

# 洋服地で作る浴衣

—従来型で、作りやすく、ミミを活用する—

加藤祥子

## 1. はじめに

本研究室では洋服地で作る浴衣として平成 17 年度の修士論文「ミシンで作る浴衣教材・立体構成の手法を取り入れて」<sup>1)</sup>を始めに、平成 18 年度の卒業研究で「コツのいらぬ浴衣作り・衿腰に着目して」<sup>2)</sup>、平成 19 年度「一人で作って綺麗に着られる二部式浴衣」<sup>3)</sup>、平成 20 年度「体型を考慮した二部式浴衣」<sup>4)</sup>を発表してきた。

今回は二部式ではなく従来型の形式で作り方を再考し、熟考して作り方をまとめてみた。

従来型の身丈を完成間際まで短く保ち、縫製時の布の扱いやすさを考えた遠山の方法<sup>1)</sup>を用い、様々な段階で研究の成果を引用した。

ミシンを多用して時間短縮を狙い、ミミを活用して並幅の縫製法も経験できる。

洋服地は幅が広いことで効率よく裁断できるが、罫を入れるということは始末も考えなければならない。背中心は袋縫いで裁ち端をくるみ、両端にミミを残した。前身頃の両端は肩の形状を出すために斜めに裁断されることからミミは使えないが、後身頃の両端に配したミミで押さえてミミぐけをして、比較的長い下部の始末を簡単にした。

新指導要領では中学校で浴衣などの和服の基本的な着装を扱うこともできるようになった。浴衣を作って、和服各部の名称を知り、また古の知恵を知ることも楽しみである。以下章立てて各部の縫製法を掲載する。

## 2. 採寸

浴衣の採寸は 3 カ所である。身長、腰囲（ヒップ）、衿丈を測る。身長はそのまま身丈になる。腰囲は臀部最突点を通る周経である。「腰」と書かれるため、ウエストより少し低い位置を想像するらしく、自分で測らせると極端に小さく測る場合がある。浴衣の指導を始めた頃、採寸値を信じて作ったところ、小さくて着ることのできない浴衣ができあがった事があった。重要な採寸値である。正しく採寸できるよう指導したい。また、人に知られたくない値ではあるが一人で採寸することは難しく避けたい。二人で相互に測るか、三人一組で測ると正確である。

衿丈は夏の和服である浴衣として考えると、少し短い丈が涼しげで良いと思われるが、近年の浴衣ブームを見ていると冬の和服のように衿を長く作る傾向があるようだ。浴衣を涼しく着たい場合は、一番短く測る方法で採寸する。始点はバックネックポイント（頸椎点）、終点は腕を横にまっすぐに伸ばした手首点である。腕を下げた状態でショルダーポイントを通して測ると最長になる。本研究室では中間の長さ 45 度外挙で採寸している。

## 2.1 採寸値と寸法表

採寸値の表には自分の採寸値を入れる。寸法表のあいている部分の寸法を右に示す設定方法から割り出して埋める。あらかじめ寸法が入っている部分は定寸である。また表中央部に標準寸法を示した。算出した値とかけ離れていたらもう一度計算すること。

### 《 採寸値 》

身長	cm
腰囲(ヒップ)	cm
ゆき 衿丈	cm

### 《 寸法表 》

寸法		標準寸法	設定方法	
身頃	① 身丈	cm	150~160 身長	
	② 肩幅	cm	30 衿丈÷2-1 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">肩幅&lt;後ろ幅 の場合, 肩幅=後ろ幅 にする。</span>	
	③ 衿肩あき	9 cm	/	
	④ 後ろ衿ぐり	5 cm	/	
	⑤ おくみ下がり	23 cm	/	
	⑥ 後ろ幅	cm	28 腰囲÷3.12	腰囲×1.5÷2を 後ろ幅:前幅:おくみ幅 =15:12:8 に配分
	⑦ 前幅	cm	23 腰囲÷3.89	
⑧ おくみ幅	cm	15 腰囲÷5.85		
おくみ	⑨ 衿下	cm	76~80 身丈÷2+3	
袖	⑩ 袖丈	cm	45~55 身丈÷3が目安。 好きな長さでよい。	
	⑪ 袖口	23 cm		
	⑫ 袖つけ	23 cm		
	⑬ 袖幅	cm	32~34 衿丈-肩幅	
	⑭ 袖の丸み	8 cm	半径2~10 好みによる。 中年以降は小さくする。	
衿	⑮ 衿幅	12 cm	/ できあがりは半分の6(5.8)cm。	
	⑯ 衿丈/2	cm	/ 型紙の衿付け寸法を測る。	
	⑰ 共衿丈	80 cm	/	

### 【採寸値と寸法表】

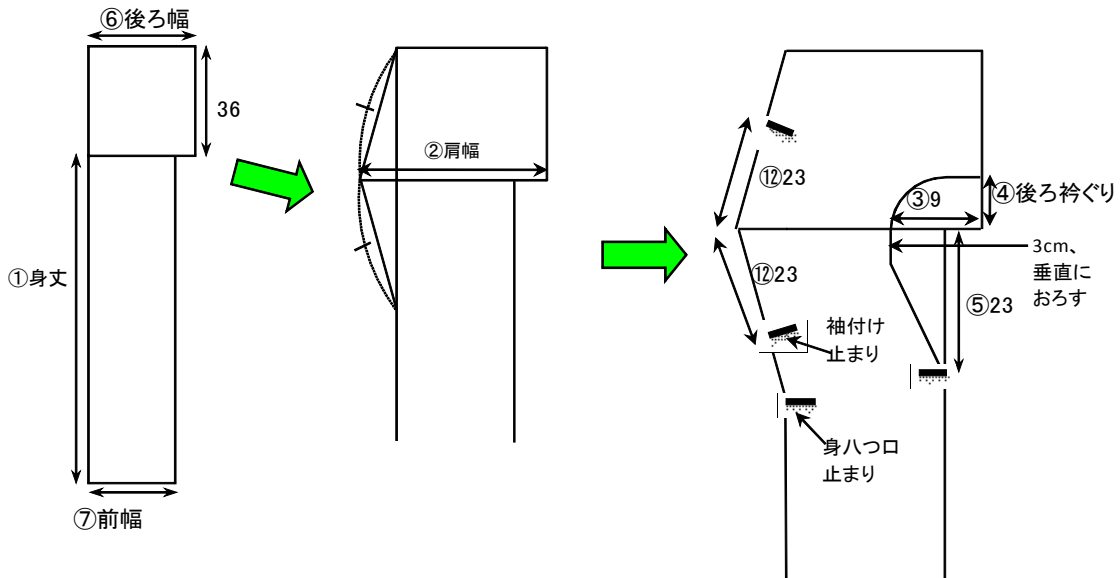
### 3. 浴衣の製図、合い印、縫い代、型紙の配置

#### 3.1 製図

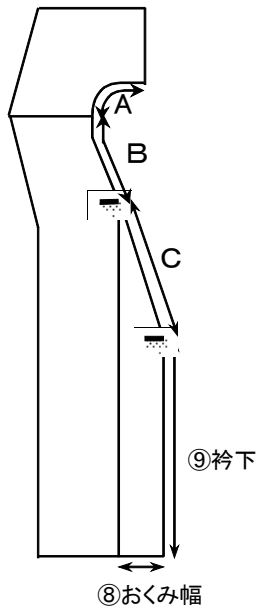
\*数字が入っている所はその寸法(cm)で、名前が入っている所は自己寸法を入れる。

①～⑯は前ページ寸法表の項目と一致

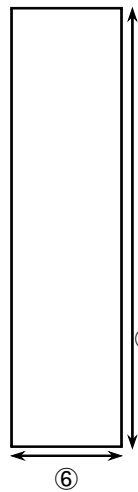
##### (1) 前身頃+後身頃上部



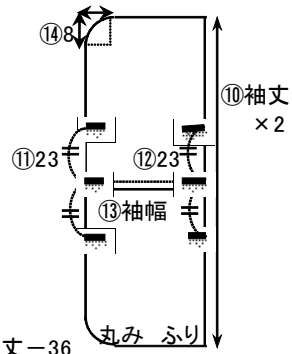
##### (2) おくみ



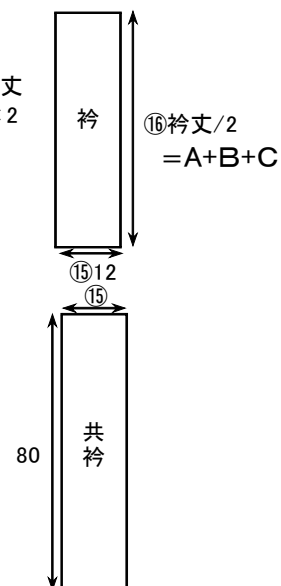
##### (3) 後身頃下部



##### (4) 袖



##### (5) 衿

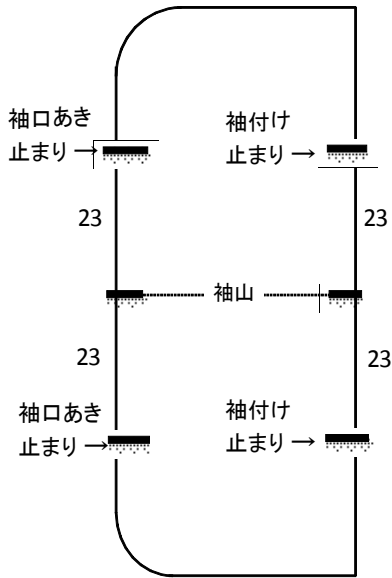


■ 糸印

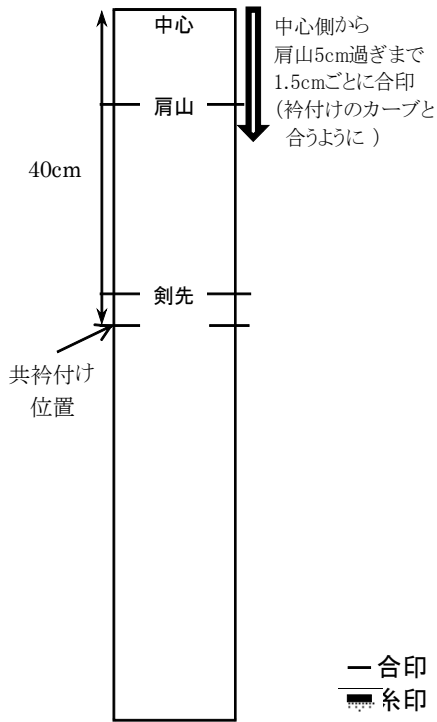
**【製図】**

### 3.2 合い印・糸印の位置

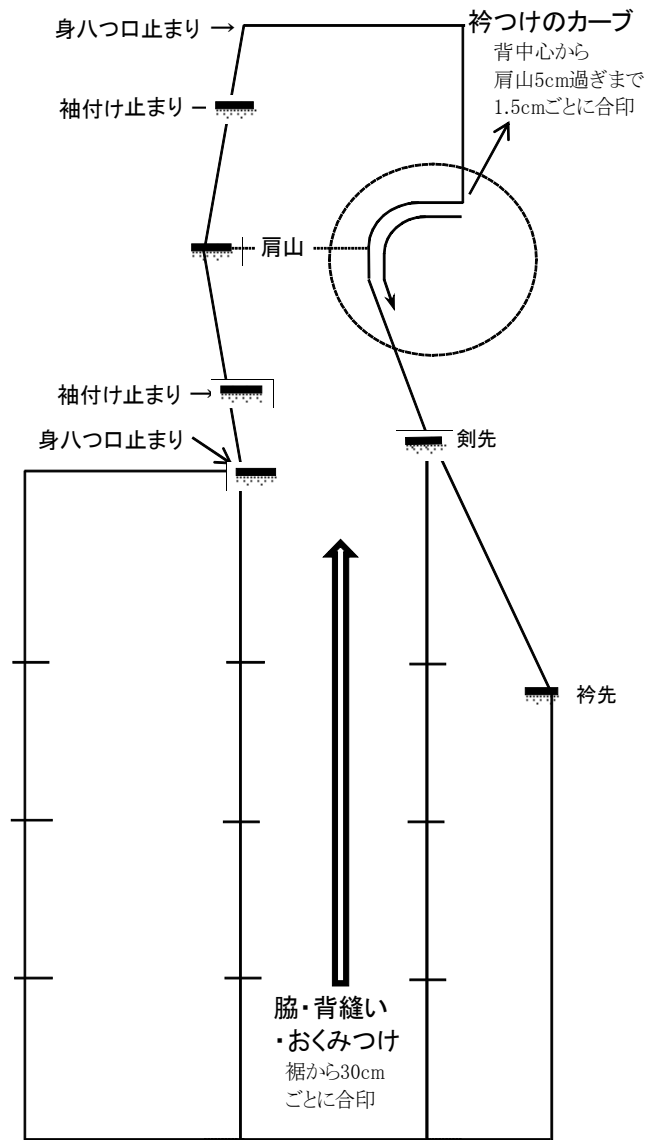
#### 《 袖 》



#### 《 衿 》

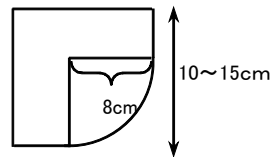


#### 《 身頃 》



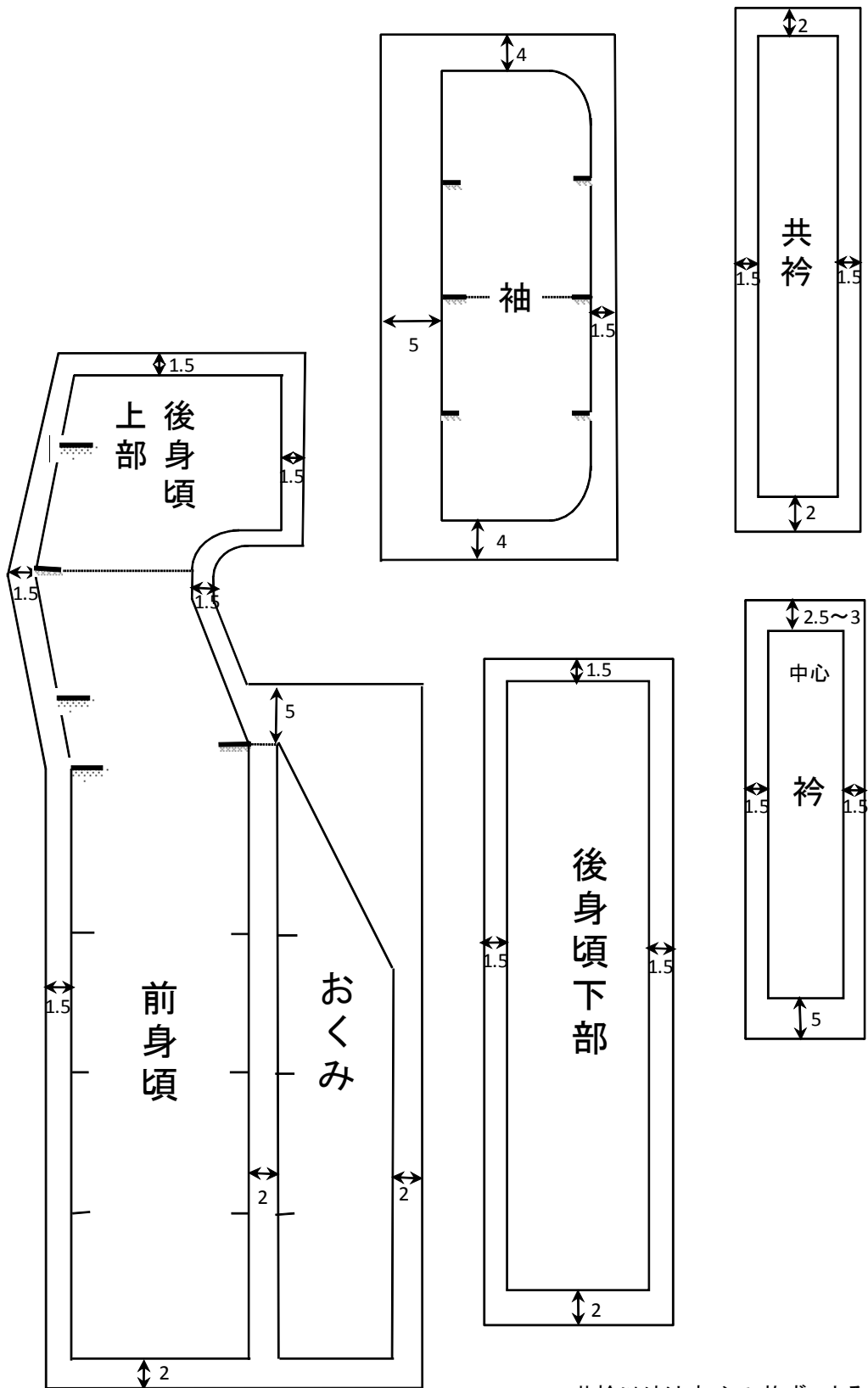
#### ☆準備☆

厚紙で半径8cmの丸み型を作る。



#### 【型紙に合い印・糸印の位置】

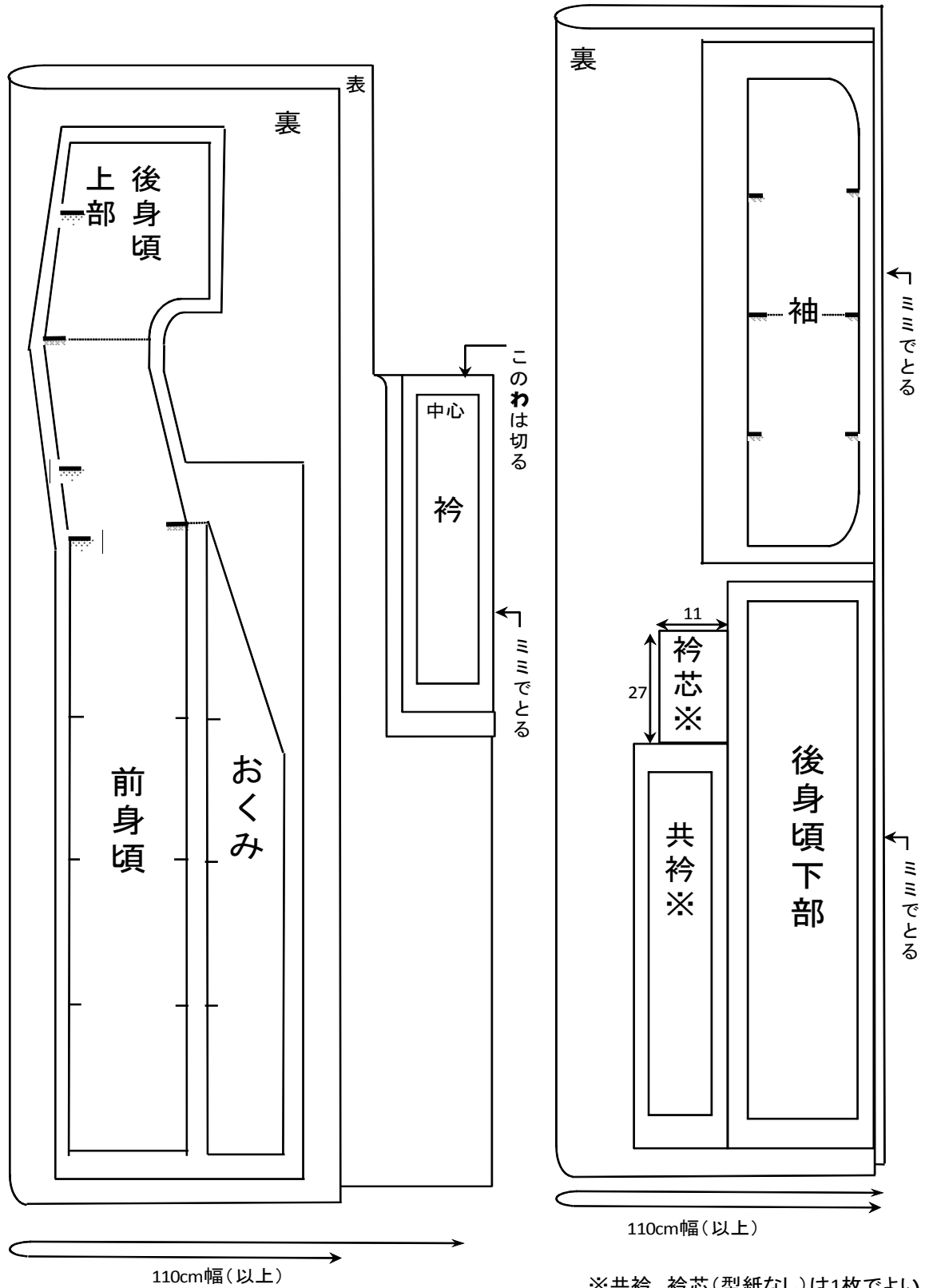
### 3.3 縫い代



共衿以外はすべて2枚ずつとる

**【縫い代】**

3.4 型紙の配置

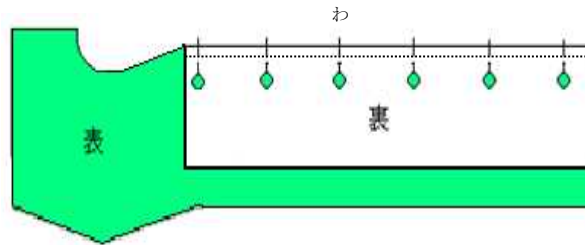


**【型紙の配置】**

## 4. 縫製

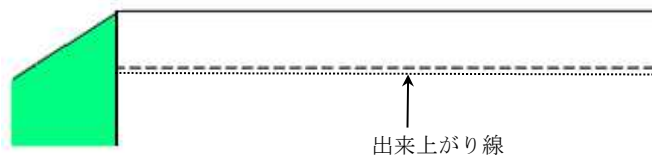
### 4.1 前身頃・おくみ

(1) 前身頃とおくみを中表に合わせ、合印に待ち針を打つ。

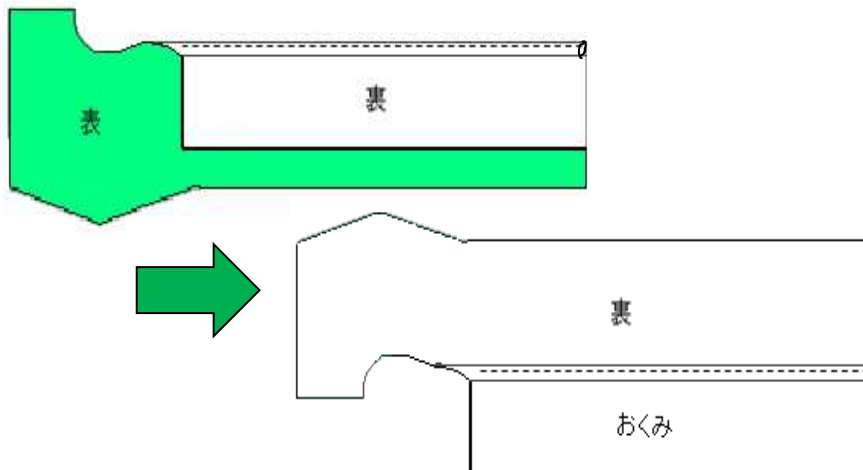


(2) 出来上がり線の1~2mm縫い代側をミシンで縫う。

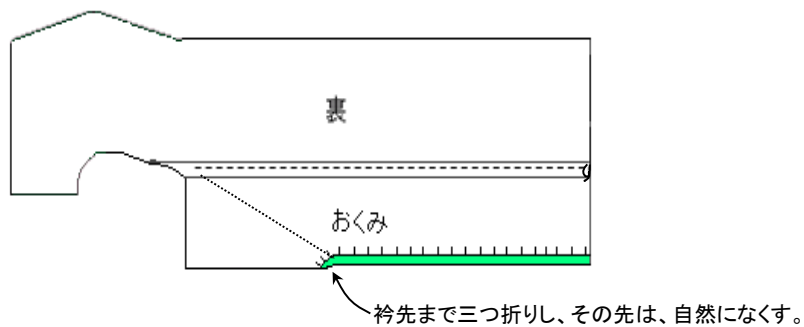
→この作業を「きせをにかけて縫う」と言う。



(3) 出来上がり線でおくみ側に片倒しする。



(4) おくみの衿下を三つ折りしてくける。

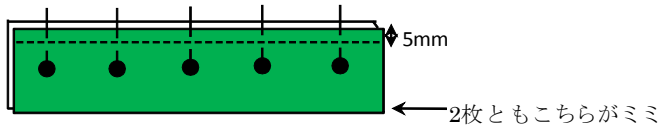


**【前身頃・おくみ】**

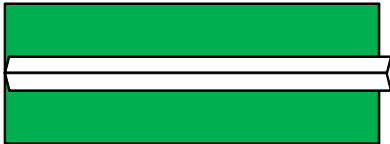
## 4.2 背縫い

背縫いは後身頃上部、下部ともに袋縫いで始末する。

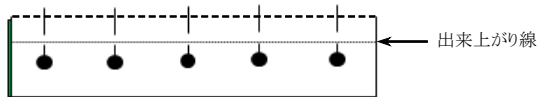
- (1) 後身頃下部を外表に合わせて端から5mmのところを縫う。



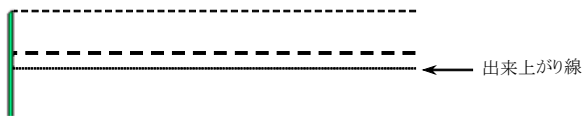
- (2) 縫い代を割る。



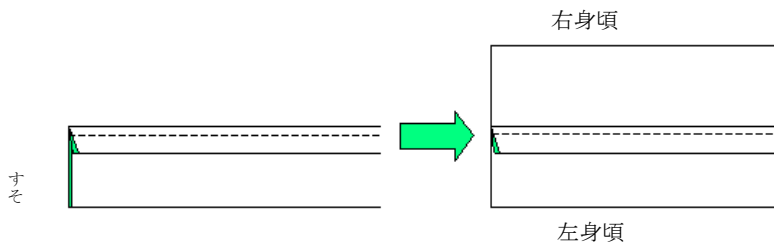
- (3) 縫い目を上にして中表に合わせ、出来上がり線に待ち針を打つ。



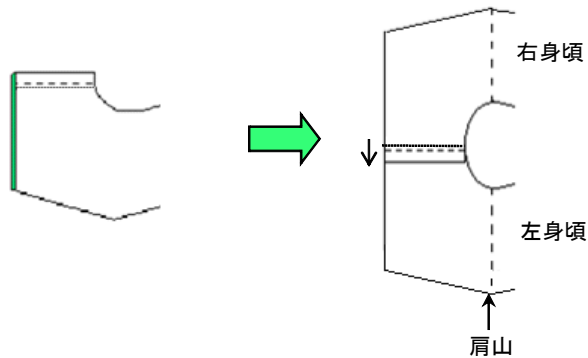
- (4) きせを掛けて縫う。



- (5) 出来上がり線で片倒しする。倒す方向は、着た状態で左身頃側。



- (6) 同様の方法で、後身頃上部も袋縫いできせを掛けて縫い、出来上がり線で左身頃側に片倒しする。

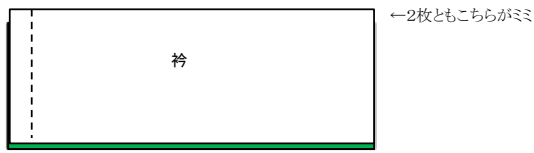


**【背縫い(後身頃上部・下部)】**

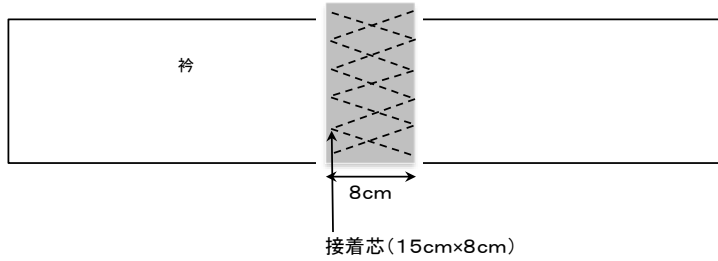


### 4.3 衿作り

- (1) 衿を中表に合わせて、中心側を出来上がり線で縫い、縫い代をわる。  
\* 片側(内衿側)にミミを揃える。



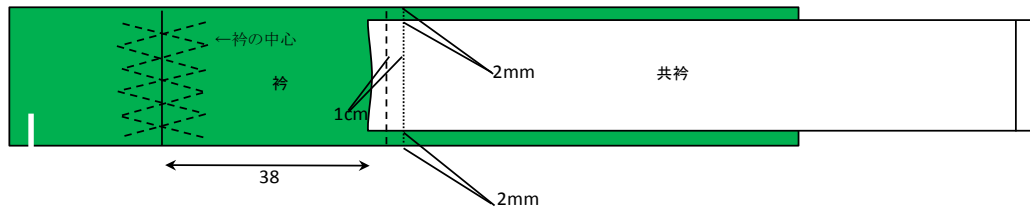
- (2) わった縫い代の上に接着芯を貼り、ジグザグに縫ってしっかりさせる。



- (3) 共衿の裏全体に接着芯を貼る。

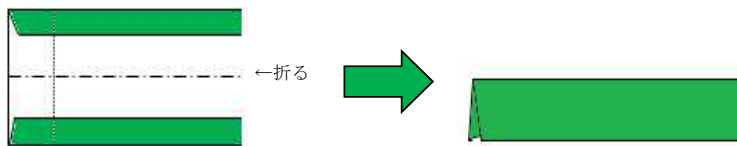
- (4) 共衿を縫い付ける。

- ① 共衿を衿より衿幅の両端から2mmずつ控えて、共衿付け位置に中表で合わせ、出来上がり線にしつけをかけ、図のように1cm縫い代側を縫う。  
② 共衿を出来上がり線で折る。(1cmのきせがかかっている状態となる)



- ③ もう一方も同様にしつけをかけて縫い、折る。

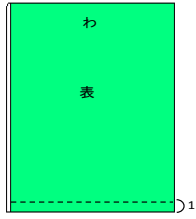
- (5) アイロンで、縫い代を出来上がり線で折り、さらに半分にして、出来上がりの衿の形にする。



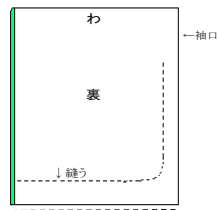
**【衿作り】**

## 4.4 袖作り

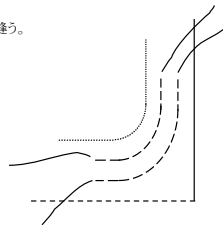
- (1) 袖口の縫い代にアイロンで三つ折りの折り目をつける。
- (2) 袖山で外表に折り、袖下の端から1cmのところを縫う。



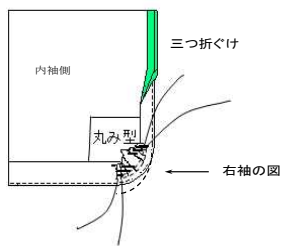
- (3) 裏に返し、中表に合わせ、袖口あき止まりから袖下をきせをかけて縫う。  
(三つ折りは開いて縫う。)



- (4) 袖の丸み部分に大きな針目で2本縫う。  
  - ・布端と縫い目の間を3等分した位置を縫う。
  - ・丸みの部分より長めに縫う。
  - ・ぬいしろは切り落とさない。

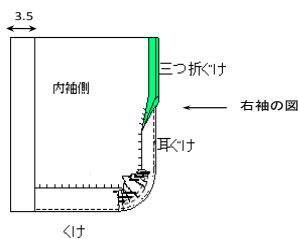


- (5) 袖口を三つ折りぐけする。  
  - ・袖口のあき止まりまで。
- (6) 袖の出来上がり線で、縫い代を内袖側(前側)に片倒しする。  
  - ・袖口の下三つ折りは、自然にひらいて片倒しになるようにする。
  - ・丸み型に合わせ(4)の糸を引き、丸みの縫い代は細かくひだを寄せて折り、縫い代をとめる。



\*この作業で袖に左右の別ができる。2つとも同じ方向に作らぬ。  
また、左右とも内袖側に糸などで印を付けておくこと。

- (7) 片倒した縫い代を耳ぐけする。
- (8) 袖付け側の縫い代をアイロンで三つ折り (1.5と3.5) しておく。

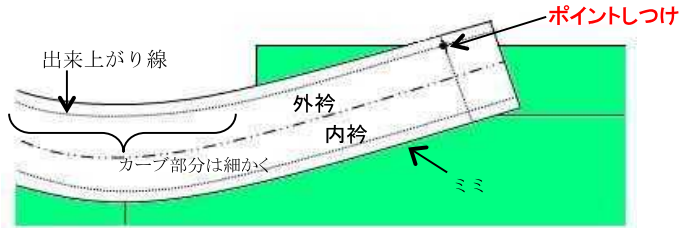


【袖作り】

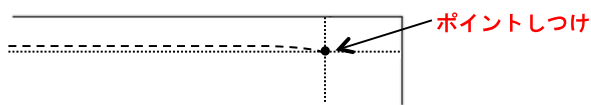
## 4.5 衿付け

(1) 待ち針を打って、しつけをする。(衿の縫い代は広げておく)

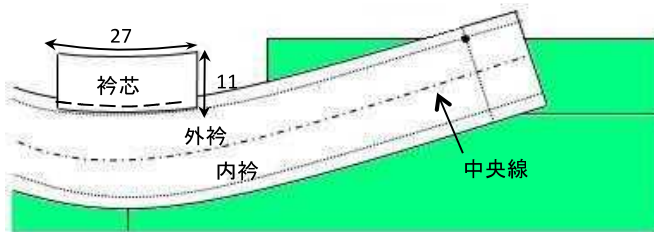
- ① 衿のミミではない方と身頃を中表に合わせ、合印で待ち針を打つ。
- ② 衿先と衿付け止まりがずれないように、必ず**ポイントしつけ**(ミシン糸2本取りで1mmの針目で縫い、2回固結び)をする。
- ③ 出来上がり線でしつけする(一目落とし)。



(2) きせをかけて縫う。  
(衿先は出来上がり線で終わるように。)

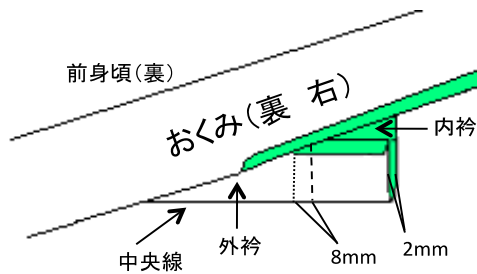
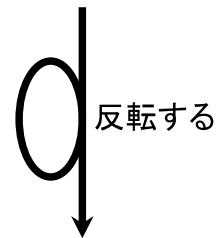


(3) 下の図のように衿芯を直いて、1目落としで縫いつける。(縫い代の中の中央に縫い目が来るように)

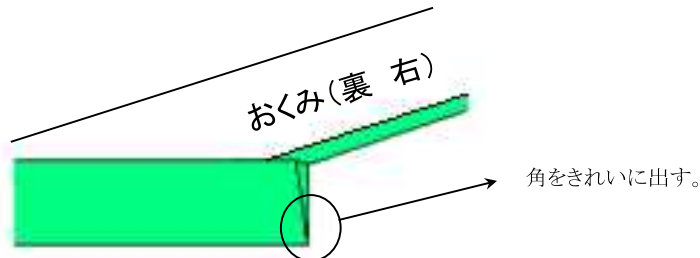


(4) 衿先を縫う。

- ① 出来上がり衿幅(中央線)で中表に折る。
- ② 衿先の縫い代を、内衿を2mm程ひかえて合わせ、待ち針を打つ。
- ③ 出来上がり線から8mm縫い代側を縫う。



④ 衿先の縫い代を内衿側に片倒しをし、おくみを衿の中に畳み込んで、衿を表に返す。



(5) 内衿を合印同士合わせて身頃にくける。

**【衿つけ】**

## 4.6 身頃を縫い合わせる・袖付け

(1) 後身頃上部、下部を縫い合わせる。

①外表5mm、中表1cmの袋縫いにする。

②縫い代は下方に片倒しにして、ステッチで押さえる。

※布が厚く、袋縫いの重なりが固くなる場合は、後身頃下部の袋縫いを上端より5cm分逆に倒して縫い合わせ、自然に元に戻す。

(2) 脇を縫い合わせる。

①中表に合わせ、2mmのきせをかけて縫う。

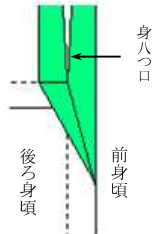
(縫い止まりを通り過ぎて身八つ口まで縫ってしまわないように。)

②身八つ口の縫い代は割る。

身八つ口あき止まりから15cmの

所にかけて縫い代を斜めに折り、

脇の縫い代は前身頃側に片倒しする。

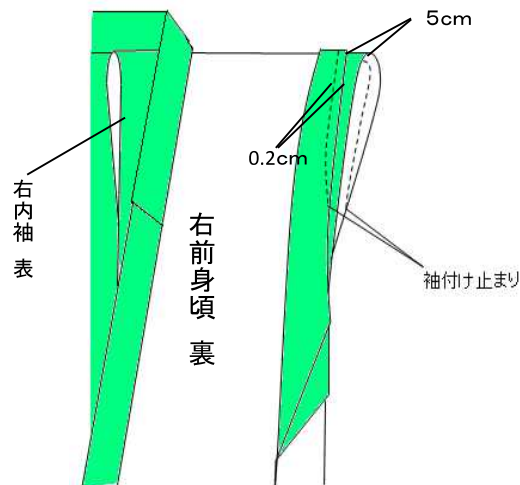


### 【身頃を縫い合わせる】

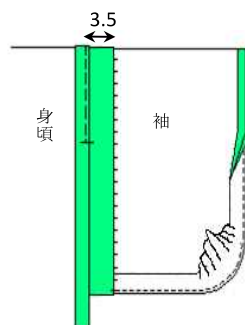
(1) 身頃と袖を中表にあわせ、身頃の出来上がり線と袖付け線を合わせて待ち針を打ち、しつけをかけて身頃の端を(端から2mm)縫う。

\* 右袖・左袖を確認すること

縫う際袖が邪魔になるが、踏んで縫ってしまわないよう気をつける。



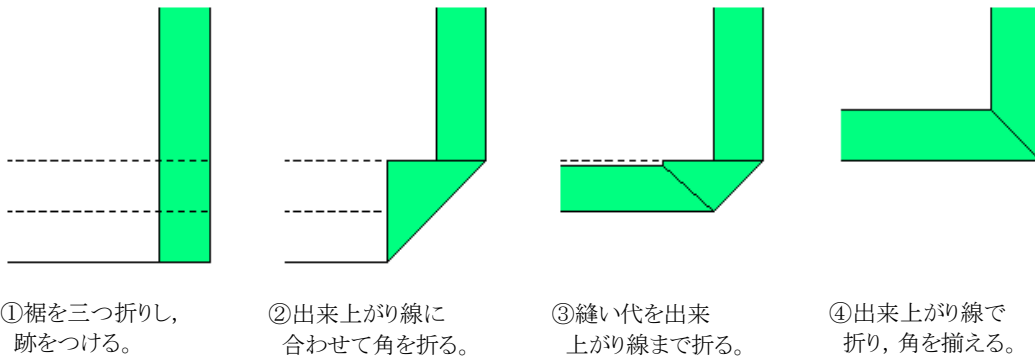
(2) 袖の縫い代を三つ折り(1.5と3.5)し、くける。



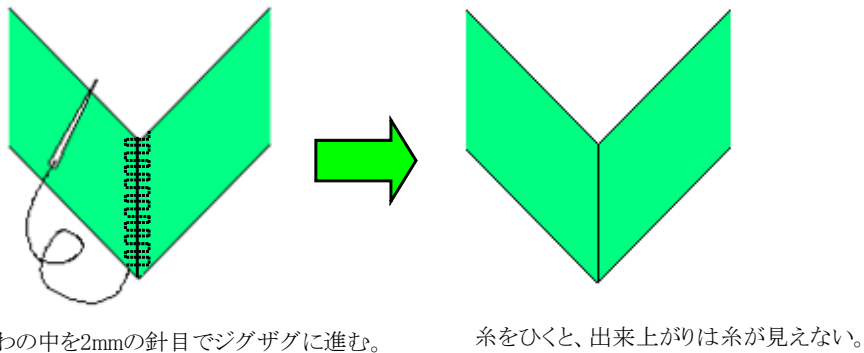
### 【袖つけ】

#### 4.7 始末

(1) 裾を三つ折りにし、角は額縁折りにする。



(2) 裾をくける。  
額縁折りの部分は渡しまつりをする。



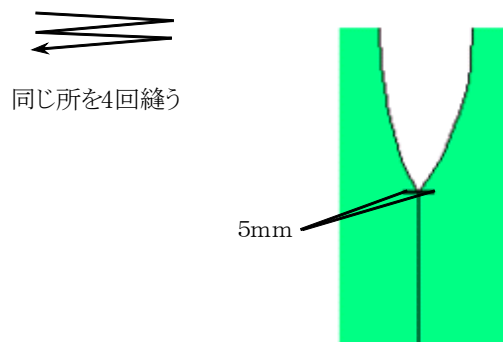
(3) その他の始末

縫い代の状態に合わせて始末をする。間隔は広くてよい。

- ・背縫い・おくみつけ → くけ
- ・脇縫い → 耳ぐけ
- ・身頃・袖付け → 三つ折りしてくけ

(4) 留めステッチをする。

\* 袖口(2), 袖付け止まり(4), 身八つ口のあき止まり(2), 計8箇所を留めステッチする。



**【始末】**

## 5. おわりに

浴衣ブームが始まってから、「洋服地で作る浴衣」を教材とするべく、5年の歳月が流れた。身丈の2倍の長さを扱う苦しさから、後身頃の身八つ口位置で裁断線を入れた。これが合い印にもなり、脇の縫い合わせの間違いもなくなった。ミミを活用して始末の時間を短縮することもできた。洋服地で作ることで効率よく裁断でき、5メートル程度で1着仕上がる事も経済的で魅力である。着付けの楽な二部式の浴衣は次回掲載する予定である。

1ページにまとまりよく項目を配置し、10時間で仕上がる事を目標に作った。自由にプリントアウトして授業や趣味にご活用いただきたい。洋裁とは違う、和裁の知識を増やし、古の知恵に触れ、日本の文化の継承につながることを期待したい。

作図に関しては手直しを含めて、新しく描いてもらうことも、本学現代学芸課程情報科学コースの都築茜音さんにお願ひしました。何度も見直し、正確を期してくださいました。深謝いたします。

## 引用文献

- 1) 遠山雅乃 (2006) 「ミシンで作る浴衣教材-立体構成の手法を取り入れて-」 愛知教育大学修士論文
- 2) 安藤あゆみ (2007) 「コツのいらない浴衣作り-衿腰に着目して-」 愛知教育大学卒業研究
- 3) 柴田実由 (2008) 「一人で作って綺麗に着られる二部式浴衣」 愛知教育大学卒業研究
- 4) 篠崎優里 (2009) 「体型を考慮した二部式浴衣」 愛知教育大学卒業研究